



さくのけいこ
作野桂子 議員
SAKUNO Keiko

Q. 子ども110番の家を訪問しては

A. 検討を進めていく

先日、子ども議会で「安心安全な地域づくりのために」という質問があり、身の危険を感じた時に助けを求め駆け込める場所として、子ども110番の家が紹介された。私自身、緊急時に派出所に飛び込んだが、誰もいなくて困った経験をしたことがある。登下校だけでなく、町全体で子どもたちを守る環境をつくっていく必要がある。

Q 本当に子ども達が駆け込める場所にするため、定期的に募集・更新や訪問をして不在の多い家は名称を変えるなどの対策が必要だと考えるが、どうか。

A 企画調整部長
これまで加入要請・要望により登録などを行ってきたが、現状を把握する必要があると認識している。今後は、看板の老朽化や通学路の実態に合った設置となっているかなど実態調査を行い、新設・廃止・変更する。表示方法などについては検討して頂く。

Q コロナ禍で中止されているが、豊山小学校のみ夏休み前にスタンプラリーとして子ども110番の家を訪問している。「つね」なご時、普段から交流があり、顔を知っている人がいる場所であれば、助けを求めやすくなる。豊山小学校以外でも子ども110番の家を訪問する機会が必要だと考えるが、どうか。

A 教育委員会事務局長
新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、防災安全課と緊密な連携を図るなど検討を進めていく。

「子ども110番の家」の役割

- 緊急時に逃げ込むための場所、保護、通報
- 体調不良、ケガの対応、水を飲ませて欲しい、トイレや電話を貸して欲しい、雨宿りなど

A.Q. 小学校の部活動の計画は新たな居場所づくりをする

部活動について、これまでに令和3年9月、令和4年3月に一般質問で取り上げてきた。いずれも残念ながら、今後の部活動の受け皿について、はっきりとしたプランが示されないままとなっている。

しかし、その間に小学校では令和3年12月に保護者へ案内が配布され「令和4年度末で部活を廃止すること」「受け皿の一環として総合型地域スポーツ・文化クラブなどに段階的に移行すること」が明記されていた。

中学校の休日の部活動は、生涯学習推進審議会で議論することになったが、小学校の部活動は議論する場もない。子ども達や保護者の声を聞き、運動を継続していけるあり方を考え、はっきりとしたプランを示す必要がある。



どうなる、部活動？

Q これまでの答弁や保護者に配布された案内を読み、令和5年度から小学校の部活動の受け皿が始まると認識している。計画はごままで進んでいるのか。今後の予定は。

A 教育委員会事務局長
新たな居場所づくりのひとつとして総合型地域スポーツ・文化クラブがある。実施可能な諸条件が整い、実施の見通しがついた種目から、わくわくする講座などを拡充して頂く。